平井權八一代記

拾一
拾二

へ13
3365
6

へ18
3365
6

平井檜八一代記巻之壱

目録

一 檜八幼遊の事

一 檜八因人と成り後世名の事

弟 檜八高堀度四郎の事 一説出る事

弟 伊丹屋長右衛門雅俊の事

大正十年八月廿九日寄贈
本大学出版部

平井権八一代記巻之壱

権八幼年の事

権八京都へ出て游廓

新く権八六ツ四ツ年を重ねて世
がしらの道中をそめていそぎて有てなんぎせし所
風ちとの家へきたりて夫婦の流のあつさを活ふ
あぶのう見つるびもく遊所やとこふ一樹の
うげ一ツのなげ世神ふりあるすも他せのるんま

て見ひよつこねりを活ふあぶのう世ゐどいをこ有も
情薬ーそ世ばりそや出ていをひなすこれ世界ゐ
のいをうをを世ぐ世ゐれこて来ふをるなすこて
今ゐ沙ゐあをこ出ーゐ世ゐ世ゐ夫婦ハ大きゐ腹
び四ーーやこの中四ゐすぐこ深ゐ世ゐ
四ゐのをいりれーーゐ今ゐ四ーーやこゐ成ゐて
ゐめゐ世ゐもゐくをゐゐくをゐ言ぐなりとていと
ゐをーて三出ゐりゐ夫ゐあゐゐ権八ハゐをこ三
ゐりゐ腹の方へ志のびををゐりゐ世ぐむをゐい

大きゝ疫びゝ〜さゝの四ことをまちうまたり器
をそなくの通了金子もぬるきゝ出〜をりとして
則百姓あるもいぞ〜て渡〜〜を垂で棹八大きゝ
ゝつまいびをうん中なり〜かしもやゝ〜ゝ家〜
てゆくべ〜〜〜風呂敷つゞくなどと〜らへ表ゝ
ゝまぎ垂もをめゝと同道〜て三のさゝりゝ三て棹八
ぼをりゞと思ひるゝハ今月ことの むをめうちゝゝ花
ゆゝきいゝさゞめゝ〜ゝ内ゝてい三〜ゞ〜て遠〜
ゆゝ糸とをづゆ屋〜〜さ有るゝきゝめんどゝなり

不論つ垂てらあ〜てゝもどいゝゝをを屋ゝぞん祢ん
ゆゝもあ〜び今子文元ゝゝんゝとの半四ゝ垂ゝで
途中ゝゝいて対て三つ屋〜と思ひなゞゝ道を
いゝをぎりゝ木ゝるゝゝ松明数ゝ女
りて大勢の人ごんきゝ〜へり垂ゞ棹八むをめゝむゝひ
あ垂きゝ垂ゝ人数のきゝ〜ゝるゝたゝ〜ゝゝ遠人へと
見へなゝいゝゞをゞ〜 和下ぬあゝちゝゝかゝりてきゝ
めてゝゝゞゝら垂人ゝゝ空なり四ゝいこの有る家ゝ
ゝゝてゝをゞれゝゞ垂と待ぬへゝ垂ゝ三ゝり三ゝ

祇なすくむひとまゝにせゞしとこゝを垂ゞまいつ垂
たまき行ゝなよりうち戒きて人かゝみ〳〵りの仏とて三衣
ゆゝしのつんやたとへ死するもぬしさぬと四一
不ふなすりやうんとなすらぶと流〳〵うゝ爲きて
いさゝみ云うゝりる檜八もセんうたなく道をなづ
行てさゝしゆきりるふ遠てのりの其ふをんで道
よりりるふ檜八号ひりるふあゝとそふかゝゝを垂
道とうゆゝうびこのすゝうそい我もとゝたなる
爲ゝと志ゆんゝくむをめの行〳〵するとと見下が

ぬをゝるゆを見せびとゝゆのゞと一力ふ大ゞきふゞで
きゝをりりるすをゝふ遠とやいゝをん大恋の
ゞゞどこを杉を行ゝゝ其むゞんなゝるゝむをめが
をいゞなすり檜八ふあゝとも見びゝていつさんふ
逐うせをゝ遠人のりのゞを遠ゝあゝをを来りむ
はめが切ら垂ゝと見て大きふれを行き切人仏の
をのをゝるやいづをふ形るゞきゞセ〳〵せゞ垂とこ
ゝふゝふゝゝゝ遠りるりふゞ檜八もゆのまり
のセんゝをゝとふゝ人の杉の木を有りゝふのゞ

[illegible]葉ばを垂てこそ土のびいる道人のゆき四方八
方とさすべ林も垂ぶもさそふ[illegible]糸を垂びせんこと
はきてすべ〳〵むすめの死ぐいとりちらくなく
家へくるる松の木陰八ゆう〳〵あのあけがた
ゆくてお道へ出たりくるぶを垂ずすまし〳〵糸乱
へたちくるく有〳〵方のべふ[illegible]ちたのべ[illegible]毛角みんの
用みたちくのゞ垂ゞくあり垂ば仙のとゞを一度
江戸へくる先年七活ふあづうし情陸を院
[illegible]ふ[illegible]ゞふ陸閑ふも角考〳〵たしうつ小紫

りふうつくを見ふふなすうといろ〳〵足素〳〵ふる
きつく見ひつきひたちを貞享元年八月大坂おりて
[illegible]敬[illegible]ちゞ度四段[illegible]年八月大坂おりて
[illegible]先[illegible]遠くくれ書をとりつくの等
ちゞ垂い平井檜八〳〵ものそひ戒光のつき
ゆし天地のゆるみ座[illegible]仕らべき有もなくそいの垂
ゆ[illegible]〳〵ゆ[illegible]〳〵[illegible]やりゆ刑ぞつと[illegible]べ〳〵[illegible]
役有〳〵[illegible]出ゞ[illegible]ゆ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]
[illegible]出ゞ垂ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]

たい面のとおりたりてよりぬ下部ありしに四等
の檜八なるの祢てきてたゝしばやてゝ神明
なるこゝ祢ざしうなる世七月廻うく垂てものゞ垂へ
とまる木れれの世ゝ名のいつるゆいさぎよき
志へていまちけぶかへ下のひ罪へ今垂たる花
もなすしゝ別ち大ゆとりぎとう縄うみくあゝの
りのふ我七無分門へ大海さしゝくゝ沼底蛇へ
とれくらゝ大十三波通るゆも平井とりくゝ
ふ吉をふゝふもとうなり四月廿三日蛇沼花

ふけふりゝその赤ハ大雨りゝく志のをにきらいでん
いなずまゝその生さ海しきをすりゝ

平井檜八蛇澤中面へ むゝの事
伊丹尼生石馬へ大すんぎの夏

かくて檜八天地廣ゝといへども接恋のゞ垂親
ゝ大仮四生形不へ各のり出ゝふりつく生な
ゝもち雲龍ゆすゞの細をとり江戸表へとて
ちされ生でふ来海尼蛇沼ふ降きふりゝ志る

お稙八ちさしそへの豊乃国へ流ふむりひて殺さ
ゆかうふいも無下でき者をとるべきれをそう有
さて通ひ世ニ方なすして無ふ所さ面不そて伊
丹屋長右衛門とゆりの四社に彼ハ風しをんはに
由緒をりつく今書あ御もるれさもいさそそ
しこ所ニ名のりハ死罪ふあの御りんひつぎく
たちへ出へなすく右の余子他人ふあをへ今ハ出ま
んぐをいたりつく右の長右衛門とゆりのと無へ
めしよもく無わさるべくと形ひに無ぐ子細あ

じと乃流より家屋敷の幸をふゆつもるく伊丹
長右衛門とよびふつうをしるる長右衛門ハ伊の中ふ人
と使と作ふ家屋敷（走りりる乃国へ流さ乃
そ則稙八ぶ母義のそぐ長右衛門出れ無ハ稙八
ゆりるふをそ〳〵長右衛門屋ハたすつうくをぐ
をくをふ御ぎなるるりてき度ふ四人母をそ
いをもしが天竺のぶ無ぐくして世ふ大坂ハを
行ふへうをそ出ハりつき形の通りをすさぐめて
ハたちゆ後ハつくふ四ハ仕無のるべくをそ風の

手人のとものごとのごとくなる事ならずいのち懸めるべく
そ無うつき出て遠くに部中せし金子弐百まんたま
今ゝくしあらうべくとこゝろ無でいたる長者の
大きゝおどろきそこの何ゝやきるとなるものと
ゆい新ゝ人でもたすけ給ふとなづくうし
貧人も既たすけ給ふ法と無なるゝ相書をそ
えの在まへいたりたりし無だ人遠ひして有らず
さゝゝなるとやそ無てい拙者なんぎゆも相ゆ
郎位もあしきるたすけ給ふ仏なるふ而れおへなすと

ゝ為ちぐ〳〵中なる橋八わり〳〵とこゝろ変ひして
ち蔵つぐのそ無い半銭ゆも度ゆも仏宮ぬるゆをやさ
るそ無がしかゆゆのゆ所とたすけそ無ばとて九
拙ゆふいいもやじつ無為ゆきその中ゆ何のとて半度
ゆあづるあ金子と部たそうとりゆだきやその
うゝ考ゝ人ゆあるびとのそりゆいさゝゝも度ゆ
そ無ばゝゝが悪るゆゆすゝそる大そんゝとてきの人
うれそ無がゝるゆい積悪となすゝたるゆをとゝう
見ゝく自ぶゝゆうゝ在のゝ出ゝく巡逆ゆなのずゆる

去り世だ世移ふいなんてとまるふまきゆとゆべき
やた栢なよ社奉ふ家ふ家ふ今子とこ世
へ物系あ世とりへふ長右衛つもゆたゆ見ひよふぬ
貴紙ふくさふ世べきゆゆもなく町役へその外
へ相続世るとふへども大切のゆたな世ばそそげんふ
ゆるるとりのもなりよつく一家さんるふあ川
まりてだんん深俊せとふ浴ふ世ことふ花が
ゆるなきふもせようるゆとふるるゆ時の
きふなんふゆゆなりゆ万一の因人江戸表りて出発

味の花ゆゆのゆゆとゆ世くふむづりるへで
見飛なきるゆなりてえなあ船のそそるむひ
なりり世ば今子ととりのつめて貴人なる世と二
百ゆむさんと出ゆるる長右衛つが出外ふるん方
前ゆゆ

平井一代記巻の後終

平井檜八一代記巻の指図

目録

一 檜八智深の事
并 平井為澤花合逐電の事
一 幡随院長兵衛水野十郎左衛門
出合の事

平井檜八一代記巻の指図

檜八智深の事
并 平井ちゑてんの事

初て檜八か伊丹屋長兵衛とかたりて大金をうきとつくきて彼人元ふむひ形の義平の
むりしより血縁ふもゆりて義平の人とおらし
給ふ佛の門名をとゝめ極悪の罪人と形容
なりを垂るつきの門弟中あり其のあらそふ

ぬぐべきを帯仏寄もの社ゆゑ世令子と香奠
みな消して未来ともたゆるやうにて兵いそ
世明がたゆふ令をとれ〳〵しい人のおぞいもなう
りう人ゆまとれのこゝろぬぐこゝ数日道中のなさけ
ふなのづうゝ四れたなすゝりわすふふなすゝゝやもゝ
ゝとれぬぎゝめゝ出ゝるゝゝあるゝゝ八一幕の四面
向ともたのゝなりい恋業の切ゝきゝそわゆめ
百りたゝ残令りそひゝ香奠ゝ言あゝゝ出ゝ
りゝい世ゝも年井が志んていゝと不使ふれりひいゝふも

その方のぞゝふ南ゝセヤべゝゝ香奠ゝ言葉ゝ心
清浮光寺へ行ゝう行んゝゝ行ゝれゝゝ
きゝて又令子ゝゝあ百出ゝ酒者ゝ有ゝもゝく拾
郎人のゝふ方同ゝ元へ夢のゝゝるゝゝで酒のゝゝゝゝ
拾八ゝ雪乱ゝゝ実の一ゝ人ゝゝ急ゝ立てゝなんの来
きひあゝゝゝゝの世ゝゝ各のゝ出ゝるゝのゝゝゝゝ
雪乱ふ又世ゝもいつゝへゝふゝんゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ酒ゝゝゝ元ゝ中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
青人の小ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ世

より奥をあげ板じきとして椽の上へ
鄙の樹を植ならべ家数の十軒
ばかり通りに並べ出たる通りの山の稲荷の社
有りてそのやしろの中ふと建て植八さし料
の力と陰しげきるぶかの社の岩屋ふかくて
三四町ばかり進むにつれ美ふも言ひ
送りの役人荒奥の社しきと見せこいあるふ
方湯もきき進ぶふなうごもやぶ進て植八ぶ
へも知せびなりふるる岩あき進とそせんうさ

なる進ぶ方ばかりに植八ていなりの社
ふ陰進ぶく夜なりく人ふ進び出るく食事と
りとめ世ともよろしく方ぶ進ぶりの不ぶと三
出るく沼尻者へ三ふ四地のもいるるいば
ぶるる進ぶ四ぶるふの茶ちりふふ菓ちる茶三麓
とりふ居ぶつありる時ぶ位拍伝風ふつぶ
してふて段階の通ふ浄ふりふ傍あり
と彩てふ三ぶるるふ進居ちるる茶植八利繁ふ
て方りの月ふ祖茶とふて一服ふりしあるる

ちゝきみうるわしゆゑ給ずゝみ相遂しるゆゑ
澤山あもまゝ流れきたるゝ七流して同居
ゝゝしりうぶ檜八たゝうの子とかゝ
し拾系めかい義めゆづりとしてせいぶん大切ふ
たゝしみゝ花きおりゝ三ゝたくさつみ出る毒
ども志ゝるゝ人さゝみゝうゝ毒ゞ今い安ん成よ
ゝて一年ぞうもゝぞゝりゝ渡りいとゝ和ゝすゝ
多ゝ年忘仏ゆゝ本ゝもゝ毒ゝり一般檜八ゝ
人ゝもゝゝしき也ゝ毒つきゝ毒ゞかゝちとゝゝ

人ゝもゝゝふうゝkゝゞゝて一度あゝたるゝのゞも
ゝゝ出合人ゆゝと思ひるゝ布ゞゝゝ新ゝも
ふゝ伝ゝゝゝ思ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ伝ゝゞ
ゝゝとゝゝゝ三流ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

情随ゝ院長ゝ湧ゞ事

第　水野十三郎成出舎のこと

家ふ一生ふ男達して四年の大ふの神祇組公方
の主りのちと名のり水野十三郎と名さぐ志
てわしまを世たら情を院長三郎いと〳〵勝ひ
きの人もして多川きゆの組下三張余人その外
ふふふすどりふりのそち仲右大ぜいあり江もと
りしの門ふれしこと任達さあり大ふの神祇組あの
ひい上組の栖組大すど沼中なのど世あるき世右
もも不すりぐふんぎせ〳〵ぐ爰ふ水野十三郎どのい

中ふもきれひのか〳〵らとりふ祇の人ふすりう祇て
出三郎ぶりゆとき〳〵て系寄せんふゆとのぞ〳〵りるが
抑もふすくうちすぐりるふある附吉京仲の下一
りんどや利八りふふあるそび春〳〵世酒名人ふ出じ
ぢりゆ一友の三九中りてあり〳〵ぶ流ふぐふふ
丁町と見物ふ出ら世〳〵ふその沼人長三郎きを
ア見世バ見セふり〳〵せんと〳〵き酒者〳〵ちと
〳〵有ら世ど立ちりふきりふ仏人のあそびて
ゆや三郎そこて〳〵水野十三郎どのふふ

第　水野十三郎左衛門のこと

寛永一世ふ男達して日本の大小の神祇組公方
の志りのちと名のしし水野十三郎と云さぶらひ
て有しを世たち惣領左衛門いとし〳〵勝れ
き人にして多川きゆ〳〵の組下に張本人その外
あらたすどりふりのそち仲間大ぜいあり又ものも
りしの間ふれこと任達さゆして大小の神祇組あり
ひいき組の内組大すど沢中なのでを世ある
もものすりぐなんぎせ〳〵ぶ爰ふ水野十三郎どの

中ふもきれひのかしらとりふ組の人なすりう祭て
出立清ぶゆとき〳〵て系者せんゆとのぞこりるが
抑もなすくうちすぎりるふある時若衆仲の下一
りんどや利八りくふあるそび乗〳〵を酒ろんふ出し
ぶ〳〵岡一友の元中そあり〳〵ぶ流なすどふ
丁町と見物ふ出ら毒〳〵ふその時長三郎きを
ア見毒バ見せふり〳〵せんと〳〵き酒者とちと
〳〵有ら毒で意ぶうとふきりるふ仲のあそびて
りや三郎そこ〳〵ふ水野十三郎どのなすりとふ

長芋をきいてさとひとつ近付みするべしとそぞん
のりくせんのとふ赤ごうふとうてあとのけふ
てういびきえて姫せうりうをうを京のごくふ鳥び
いつくしみいひうを姫ごもいうなくしほんやびみして
いうを和ふ十芋屋いをうて見すふ大のれとい
の丸をぐうふ成りのくせんのうくふあふのけふ麻
て姫うを四水野屋をみむうひと姫をなおりの
なるぞとしひのくばば帳をを院長芋とやなると
こをくくれこをうんと姫ぞ和姫屋れをくくをぞふ

れくくて多ぞことのくてそのをいうふと長芋が
屋をの元くををきうを姫ぞりくくゆをけくくを
長芋屋をとゆくて屋をくくのけ貝と印くき見て
みえんぞくを屋をくくを入和むりうを水姫屋多ぞことを
えふくくををきうを姫ぞも芋屋むくくぞをびい和姫
ば水姫ぞの麦をうけ長芋屋くくゆをを姫うを
貝ををを毎くれぞふのきををり屋風のうげふおを
くかをぞくくとうて社ふつをあをとつを平状
くを酒ふをぞのいれて不洞法のぞんは先ちをうべし

しいらを毒だいやかしらもたらしびどんぶいゆん
長ながすぎしくれたるとくさするらきしなびしどうそて
糸雪ふたしめてなすり心後いさ酒ゆ後くしあり
らを毒だとたらの四接接有うくなりしたるふさん
まびのは合大きるを極とそ毒すりぜんて酒み
形うきまり伊達風のきしちうそ酒きふなすり
らを毒だなんで四茶四好あの四ふあしだ四肥をふさ
しあげたしいひらを毒だ茶ふいひもぎぶあ
なすりしゆきを毒らを毒びそを毒ふ伊のすりあきるすそ

ゆしをなのちち大つ出らを毒ぶ細のり鍋かり
居合せりらとよびりせ浅草四つが大門そのを毒
やのまりびー形ふ今をもあてなすげこを毒ぶ今ひ
やむぎとこしらく中しを所そでつるをしゆ
いひ分らを毒だ玉速こてしら指糸しりらんどん
屋のうづ浅草門りさんや千住百茶そで六
指八形ありらを四くこなきあて六指ぶあうひや
むぎとりちうけらを毒だ中しを所八家しのうしび
去例をそでとぶそ細ふ浅くとりるをふ四ぶどの

よしあやめのふかうまでしたる三間おもてをつくり
せんとりふなどをはなし（放生）てうめうふかりる
ようなりあんのごとく水地どの不等大きふ相違
てをりをを建りてあり所あるしふ別建て湯ゆり

平井権八一代記巻〻 指物作